



産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 産業経済新聞東京本社2018
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
東京(03)3231-7111(大代表)

産経新聞

歴史を露骨に改竄せずとも、
解釈に潤色を加えるのは、勝者
だけではない。時には敗者も自
らの政治選択や軍事敗北を弁解
するために歴史を修正すること
がある。関ヶ原戦後の吉川広家

毛利輝元の所領をすべて召し上
げ、広家に防長2州を与えらる
伝えた。すると、広家は「広家
ひとり上臈をかうぶらんは、宗
家を捨て一身の栄をむさぼるに
似たり。義をいいて安んじがた

すところなり」。家康は広家に
周防の上防口(岩国)に住し、
安芸(広島)の福島正則と力を
合わせて中国の鎮護たるべし、
と命じたともいう(『寛政重修
諸家譜』巻八百十八)。

や受けた側にはなく、吉川家側
にしか保存されていない。
そこで、日本史学者の光成準
治氏はこれらの手紙が偽作であ
るとし、広家が毛利を救ったと
いう通説に疑義を呈した。関ヶ
原後、十数年たった慶長年間末

は、むしろ吉川家にとり敗者の
戦後として芳しくない結果をも
たらした。
江戸時代さつての歴史家・新
井白石も『藩翰譜』では広家を
あまり評価しない。吉川家は江
戸期を通して正式の大名になっ
たことはない。平戸藩主だった
松浦静山(清)も、「吉川氏は
萩侯に属す。陪臣の如きものな
り」という感想を漏らした(『甲

者が礼服の下に着る白羽二重
あり、大名には許された。高家
(家格が高い礼典担当の上級旗
本)や交代寄合(参勤交代をす
る旗本)なら無位無官でも白無
垢が許されており、吉川家は
大名、高家、交代寄合の3者がク
ロスする珍しい家格だったのだ
ろう。もちろん將軍から領知朱
印状(所領を安堵する公文書)
は出ていない。陪臣にして大名

歴史の交差点

フジテレビ特任顧問 山内昌之



が恩賞として徳川家康から授与
された長門と周防を辞退し、改
易寸前の毛利本家に譲ったとい
う美談もその例かもしれない。

「十日ふたたび広家をめされ、
広家一己の栄をむさぼらず、ひ
とへに宗家をたてんことを願
ふ、貞信の志深く感じおぼしめ

川家文書』『毛利家文書』のど
の史料にも出てこない。よく似
た内容は、広家が黒田長政と正
則に宛てた手紙(10月3日)や
長政から広家に送られた2通の
手紙(2日と3日)にある。し
る物語を作り上げたというのだ
かし、これらは手紙を送った側

川家文書』『毛利家文書』のど
の史料にも出てこない。よく似
た内容は、広家が黒田長政と正
則に宛てた手紙(10月3日)や
長政から広家に送られた2通の
手紙(2日と3日)にある。し
る物語を作り上げたというのだ
かし、これらは手紙を送った側

静山が殿中で会ったとき、吉
川氏は無官ながら白無垢を着て
いた。白無垢とは従五位以上の

引きずっていたからだろう。い
わば鳥類と哺乳類の特徴をもっ
たカモノハシのような独特な存
在だったのである(山内昌之・
中村彰彦『黒船以降』第三
章)。(やまうち まさゆき)

関ヶ原敗者の戦後

出来過ぎた話であるが、『吉原後、十数年たった慶長年間末